

広島派遣報告



▲平和の集いに出演した令和3年度派遣中学生と我孫子中学校演劇部、市長、教育長、副市長で記念写真

令和3年12月5日(日)、けやきプラザふれあいホールにて「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。派遣中学生たちは、広島で学んだことや感じたことを、スライドを交えながら報告しました。



令和3年度
我孫子市平和の集い
中学生広島派遣報告

【報告概要】

- 派遣に向けて
- 1日目
- 2日目
- 3日目
- 派遣後の活動
- 私たちの平和宣言

我孫子市

2005年（平成17年）から
「我孫子市平和事業」
として中学校代表生徒が広島・長崎を訪問

広島 12回 長崎 4回
派遣人数 152名



広島派遣と
派遣後の活動について



我孫子中・城野來海さん

我孫子市では2005年から毎年、各中学校の代表が市の派遣中学生として、広島・長崎の式典に参列しています。昨年までに152名の中学生が派遣されています。

今年は新型コロナウイルス感染拡大のため式典に参列することはできませんでしたが、私たち12名が広島を訪れ、多くのことを学ぶことができました。

私たちは8月に広島に行き、76年前に起きたことを見、聞き、肌で感じとってきました。今日は、私たちが広島で体験し感じたこと、考えたことをみなさんにお伝えします。

この発表を通して、皆さんやご家族の間、学校で、平和について考え、語り合う機会ができ、そのことが少しでも平和への道につながるものになれば嬉しいです。

日 時:令和3年7月21日(水)午後2時から5時

場 所:我孫子市役所 分館1階 大会議室

内 容:

【事前説明会】午後2時から3時

1. 開会
2. 企画課長からの挨拶
3. 我孫子市平和事業推進市民会議 北嶋会長からの挨拶
4. 派遣中学生・引率者の自己紹介
5. 派遣行程及び派遣における注意事項
6. 質疑
7. その他(団長・副団長の決定、見学グループ分け、部屋割り)

【事前学習会】午後3時5分から3時35分

1. 我孫子市原爆被爆者の会の方からのお話
的山 ケイ子さん
2. 派遣中学生 OG からお話
高須 万悠香さん(H29 広島派遣・高校3年生)
3. 質疑・意見交換

【市長・教育長との懇談】午後3時40分から5時

1. 市長からの挨拶
2. 教育長からの挨拶
3. 派遣中学生自己紹介・抱負
4. 意見交換
5. 市長講義「感染症と免疫について」

・事前説明会、事前学習会



湖北中・植田ひなたさん

7月21日、我孫子市役所に、事前説明会と市長・教育長表敬訪問のために集まりました。
広島派遣の目的と活動内容についての説明を受けました。



湖北中・植田ひなたさん

自己紹介の後、我孫子市原爆被爆者の会の方から、被爆体験の話を聴きました。お話しいただいた的山さんは、1945年8月9日、長崎でお母様の胎内にいる状態で被爆された方です。



湖北中・植田ひなたさん



的山さんは、先日 NHK で放送された番組『おっぴの科学』から、あらゆる環境に生息する哺乳類の母乳は、子どもが元気に育つための最適な成分になっているという話を紹介された後、「私がお母さんから飲ませてもらったおっぴは、今から思えば放射能の影響を受けたおっぴだったんです」と語られました。被爆のその瞬間だけでなく、被爆後も、人の生命に影響を与え続けたという的山さんのお話に、衝撃を受けました。

そして、的山さんとともに活動されてきた、被爆者の会の前会長である宮田将則さんが、一昨年白血病で亡くなったことを知りました。今でも「原爆の影響」で命を奪われることの悔しさや悲しさが伝わってきました。



湖北中
久野優太さん



続いて、派遣 OG の高須万悠香さんから、派遣生としての心がまえなどをお話ししていただきました。

派遣を通じて感じたことや、今現在もリレー講座などで活躍していることも聞くことができました。

特に、暑い広島を乗り切るための知恵などはとても参考になりました。

・市長、教育長 表敬訪問



湖北中・久野優太さん

そのあとは、星野市長からお話を頂きました。市長から何を見てきてほしい、何を感じてほしいなどのお話ではなく、私達が見て、聞いて、感じたことをもとに、しっかり自分の考えを持ってほしいというお言葉を頂きました。

丸教育長からは、派遣に対する激励の言葉と私達への期待を込めた言葉をいただきました。



湖北中・久野優太さん

次に、市長と教育長に派遣中学生としての抱負を一人ずつ述べました。

私は、「3日間の広島派遣で学んだこと、感じたことを、家族や学校の仲間など身近な人たちだけでなく、できるだけ多くの人たちに伝えたい。」と話しました。



最後に、市長から「やさしい免疫の話」の講義を受けました。

「広島は暑いですから、何かあったら遠慮なく言ってください」という、温かい言葉もいただき、3日間一緒にくださるということに、とても安心しました。



我孫子中・城野來海さん



1日目



8月9日朝、けやきプラザ前に集合しました。派遣団としての決意を胸に、広島へ出発しました。

行きの新幹線では、みんな緊張や不安がありましたが、すぐに打ち解けることができました。

3日間の抱負や、それぞれの中学校の話などをしながら過ごしました。



我孫子中・城野來海さん





湖北台中・菊池未来さん

そして、広島駅に到着しました。1日目のスケジュールは、台風の影響により予定とは異なる日程になりました。



1日目は、原爆ドーム・平和記念公園の散策。そして、おりづるタワーに行くことになりました。



我孫子中・後藤大輝さん

この有名な世界遺産「原爆ドーム」は、もともと「広島県産業奨励館」という名称で、広島県内の物産の展示・卸売りや美術作品の展覧会場として使用されていました。しかし、原子爆弾の影響により、現在のような姿になりました。

原子爆弾は、この産業奨励館のほぼ真上で爆発しました。全壊しなかった理由としては、原爆の衝撃波を真上から受けたこと、爆風が到達する前に熱線により、ドーム部分の材質が熱で溶けたため、爆風が通過しやすくなったことなどが考えられています。

「あの日の記憶がよみがえってしまう。」など、取り壊しを求める声もありましたが、戦争の悲惨さを後世に伝え、核兵器廃絶と人類の平和を求めるために残されています。



我孫子中・後藤大輝さん





続いて、「動員学徒慰霊碑」を参拝しました。第二次世界大戦中、労働力の不足を補うために動員され、亡くなった学徒と原爆の犠牲者約1万人の霊を慰めるために建てられました。「君たちと同じくらいの年齢の時に戦争に動員され亡くなってしまった。」市長の説明に、胸が締め付けられる思いになりました。



我孫子中・後藤大輝さん



平和記念公園の中心には、「原爆死没者慰霊碑」がありました。この慰霊碑は、ここに眠るすべての犠牲者の御霊を雨露から守りたいという気持ちから、埴輪型に設計されたといいます。

そして、設計者が、原爆ドームを大切にしていたこともあり、資料館とドームの間に作られています。埴輪の中央に石室があり、その中に原爆犠牲者の名を記した名簿が収められています。



石碑には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」との碑文が刻まれています。広島市は碑文の趣旨を正確に伝えるため、説明板を設置しました。

その説明板には、「碑文はすべての人々が原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている。」と書かれています。



湖北台中・菊池未来さん



これは、詩人として活動し、広島で被爆した峠三吉の詩「にんげんをかえせ」の詩碑です。峠三吉は被爆後も、精力的に反戦反核運動に携わりましたが、被爆から8年後、36歳の若さで亡くなりました。



湖北台中・菊池未来さん



ここは、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館です。残念ながら、新型コロナの影響で入館することはできませんでしたが、このモニュメントが何を表しているかわかりますか。これは、原爆が投下された8時15分をあらわしているそうです。

平和記念公園内には、被爆したアオギリがあります。被爆前は4本あったアオギリですが、原爆の熱線と爆風を受け1本は消失、残り3本は奇跡的に助かり、芽吹いた際には、人々に生きる勇気を与えました。月日がたち1本は枯れてしまいましたが、残った2本からとれる種や、そこから育てた苗木は、平和活動の一環として世界中に配付されています。平成24年に我孫子市にも「被爆アオギリ二世」として送られました。現在、手賀沼公園に植えてあります。



久寺家中・吉田陽菜乃さん





この碑は、「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」です。原爆によって命を奪われた子どもと教師を慰めるとともに、「三たび原爆を許してはいけない」という平和教育を、現在及び未来に推し進める決意をあらわしています。原爆によって犠牲となった国民学校の教師は約200人、子どもは約2,000人と推定されています。

平和記念公園内には多くの慰霊碑がありました。公園を皆で散策しながら、多くの犠牲者を追悼するとともに、原爆の恐ろしさを改めて痛感しました。

久寺家中
吉田陽菜乃さん



この「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」は、原爆で亡くなった韓国人のために建てられました。原爆は、日本人だけでなく、広島にいた韓国人や中国人、東南アジアの学生、また捕虜として広島にいたアメリカ兵等も含め、一瞬にして多くの命を奪いました。この碑はもともと、平和記念公園の外にありましたが、人種差別等の問題で公園内に移転されたそうです。苦しんだのは日本人だけではないということを知りました。

この「原爆供養塔」には、当時、広島で茶毘に付されたたくさんの身元不明の方が埋葬されています。亡くなってから家族の元に帰ることすら叶わなかった人たちが、今も大勢眠っていることを知りました。

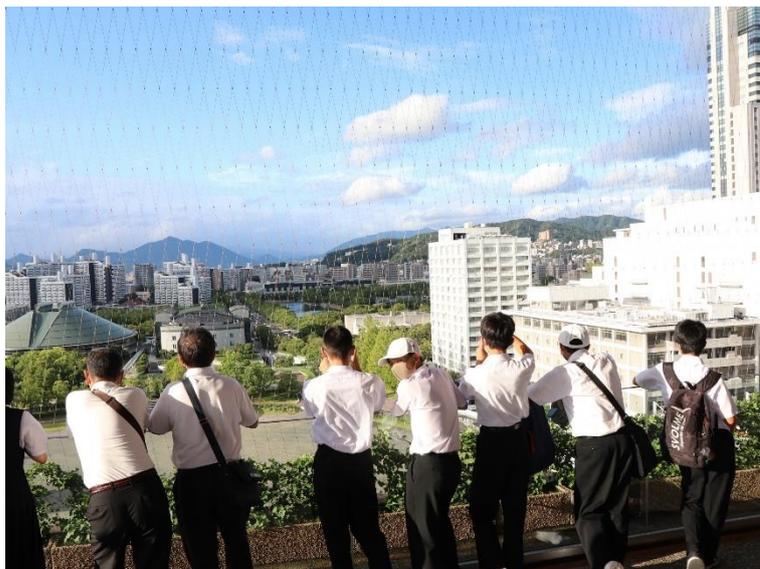


平和記念公園を後にして、私たちはおりづるタワーへ行きました。展望台からは原爆ドームや相生橋、そして平和記念公園が見渡せました。

広島市は、現在人口119万人を抱える中国地方最大の都市です。展望台からは、多くのビルや施設が立ち並ぶ大都市が見えました。しかし、この陰には、原爆によって壊滅した街を復興させようと力強く立ち上がった多くの人々の存在があることを忘れてはいけません。

おりづるタワーには、「おりづる広場」があり、様々な体験コンテンツがありました。その一つに「おりづるの壁」がありました。

私たちは、平和への願いを込めておりづるを折りました。



白山中・舟木千智さん



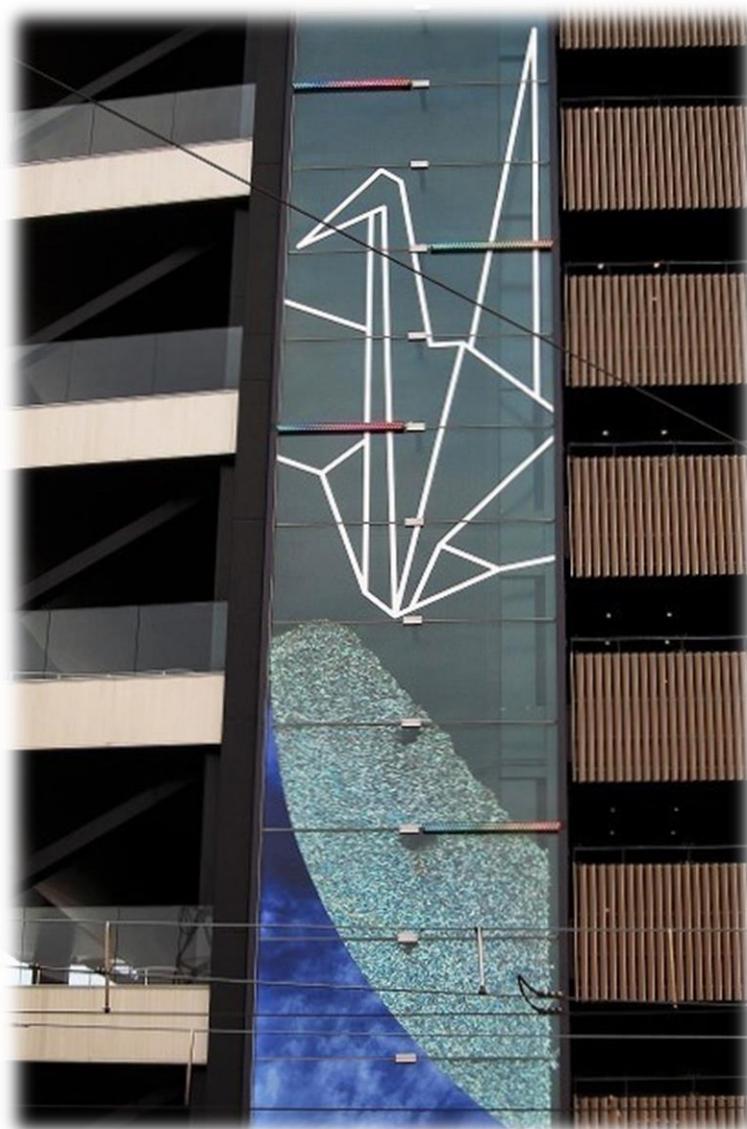
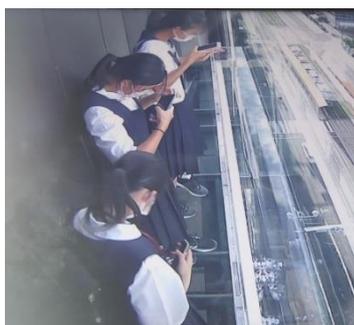
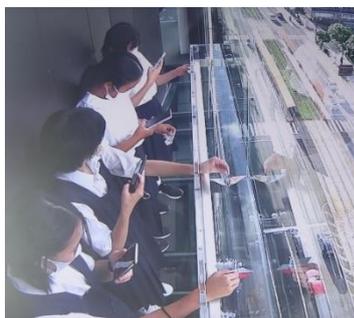
このおりづるを「おりづるの壁」に投入します。

おりづるは、くるくると回りながら落ちていきました。私たちの想いが、平和を祈る多くの人たちの想いとつながったような気がしました。

世界中から集まる平和への想い、祈り。それらが積み重なっておりづるの壁は完成します。私たちの一人一人が平和な世の中が続くことを願って折り鶴を落としました。白く見える部分が積み重なっている無数のおりづるです。



白山中・舟木千智さん

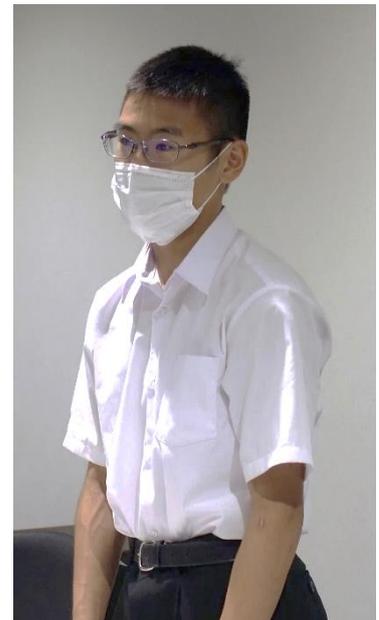




宿舎に戻り、一日目の反省会を行いました。
原爆ドームの悲惨な状況、平和記念公園にある数多くの慰霊碑、そのすべてが、76年前の惨状を物語っていました。戦争の悲惨さや、原子爆弾の影響など、実物を見ないとわからないことがたくさんありました。私たちの平和への想いはさらに強くなりました。



白山中・舟木千智さん



2日目

派遣2日目の主な行程は、多聞院参拝、平和記念公園でのおりづる奉納、被爆体験講話、本川小学校平和資料館見学、宮島・厳島神社参拝です。



布佐中
佐藤夢姫さん



布佐中
佐藤夢姫さん

多聞院は、原爆の爆心地から 1.7km の距離にありましたが、本堂や鐘楼など大破しながらも焼け残りました。その日のうちに、防空本部が置かれ、県知事のもと、国への報告及び救護班の出勤命令を発出するなど、臨時の県庁となりました。また、多数の被爆者の治療が行われた場所でもあります。

毎日、朝夕の6時と8時 15 分に鐘がつかれます。私たちは鐘がつかれる8時15分に合わせて、手を合わせました。

また、特別に、鐘をつかせてもらいました。

私は、たまたま近くを通りかかった方と、お話をすることができました。お話によると、その方のおじいさんが被爆され亡くなったそうです。しかし、おじいさんは家族のもとへ帰ることができませんでした。なぜなら、亡くなる前に自分の名前をうまく伝えることができず、身元不明者として扱われてしまったためでした。このお話は、私の心の中に深く刻まれ、改めて伝えることの大切さを学びました。





その後、平和記念公園の「原爆の子の像」を訪れました。この像は、被爆の後遺症で亡くなった佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった子の霊を慰める石碑を作ろうと呼び掛けて設立されました。

ドーム型の台座の内部には鐘があり、つられていた折鶴が風を受けて揺れると風鈴のように音が鳴ります。真下の石碑には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきづくための」と刻まれています。



白山中・高橋蒼太郎さん





私たちが奉納した千羽鶴は、我孫子市民の皆さんが心を込めて折り、集まったものです。また市内の小中学校で作られた千羽鶴も奉納しました。ここでは、日本だけでなく、世界各地から送られたたくさんの千羽鶴が奉納されています。一つ一つの千羽鶴には、訪れた人の強い思いが詰まっています。私も改めて平和への思いを考えることができました。



白山中・高橋蒼太朗さん





続いて、被爆体験講話として、白石多美子さんのお話を聞きました。静かな口調で語られていましたが、私は震えが止まりませんでした。熱で皮膚が溶けて垂れ下がった状態で歩く人、割れたガラスの破片が体中に突き刺さった血だらけの人、人間かどうかも判断できない黒焦げの死体、川に浮かぶおびただしい数の死体、傷口にわくハエやウジの群れ。

私が白石さんの話の中で衝撃を受けたのは、祖母を探しに病院を訪れたときのお話でした。「水をください、水をください」と助けを求める重傷を負った人たちに水を飲ませてあげたところ、病院の人に突き飛ばされ怒鳴られたそうです。理由は、当時、水を飲ませると死んでしまうと言われていたからでした。

私が、白石さんの話の中で特に印象に残ったのは、「原爆がうつる」との差別を受け、学校に行けなくなってしまった話でした。

本当は思い出したくないはずなのに、私たち若者に伝えなければ、という使命感で語ってくださっているのだと強く感じました。



布佐中・佐藤夢姫さん



久寺家中・北澤夢椛さん

その後、平和記念公園からほど近い、本川小学校平和資料館を見学しました。本川小学校は、爆心地から最も近い小学校でしたが、当時としては近代的な鉄筋コンクリート造りであったため、全壊を免れました。しかし、教員や、当時1、2年生の生徒400人のうち、ほとんどが犠牲になりました。

資料館の地下室には、被爆直後の広島のアナグラムが展示してありました。街の上空に浮く赤い球体が見るのは原子爆弾が爆発した場所です。アナグラムで見た建物の一つ一つに、当時は生活の明かりがあり、それが一発の原爆によって一瞬で奪われ、命だけでなく生活する場や日常が奪われたことが感じ取れました。

このような絶望の中を生き延び、広島にかつての明かりを灯した広島の方々の、苦しみながらも前進する姿勢に、勇気をもらいました。





ここには、産業奨励館(原爆ドーム)の柱の一部も展示されています。原爆によって崩壊し、川に落ちた柱の一部を引き上げるプロジェクトが行われたそうです。このようなプロジェクトを広島の方々が行っていないければ、原爆ドームはこの時代に存在していないかもしれないし、私たちがこの目で原爆の悲惨さを感じることもできなかったと思います。



久寺家中・北澤夢椛さん



熱で変形したガラスや瓶も展示されていました。これらは小学校の敷地内で掘り起こされたものです。これは私が資料館で見たものの中で最も印象に残っているものです。あんなに硬いガラスや瓶が一瞬の熱風や爆風でこのような姿になってしまったことがとても衝撃的でした。

資料館自体が被爆しているため、全壊は免れたとしても、壁や柱など損傷が多く見られました。

熱で変形した鉄かぶとを見て、原爆から身を守る方法が果たしてあったのだろうかと考えてしまいます。ガラスや鉄でさえも溶けて変形してしまうような想像を絶する熱さの中、子どもたちが亡くなっていったと思うと、胸が張り裂けそうになります。

焼けただれたもんぺも展示されています。原爆はあらゆるものを破壊しました。このように現存している資料は大変貴重なものです。

額には、雑賀忠義氏による原爆死没者慰霊碑の碑文の直筆が飾られていました。原爆の犠牲者への強い思いが伝わってきました。その思いを無駄にしないためにも、自分たちができることを少しでもやっていきたいと思いました。



湖北台中・石黒花奈さん

資料館には、多くの写真パネルが展示されており、それらは広島市や本川小学校の被爆状況を刻銘に記録していました。一つ一つの資料に目を通し、多くを学ぶことができました。

その中に、被爆後の市民の様子についてのパネルがありました。原爆投下直後の混乱の中で、負傷しながらも、救護活動や安否確認を懸命に行っている様子が見え、互いに助け合う姿に感動しました。





湖北台中・石黒花奈さん

中島地区の被爆前後の空撮がありました。ほぼすべての建造物が破壊されている様子がわかります。さらに本川小学校付近の被爆前後の比較写真をみると、鉄筋コンクリートの建造物以外は破壊され、焼失しています。

戦後の、本川小学校の運動会の写真もありました。爆心地から最も近い本川小学校の復興は、多くの人々に希望を与え、広島全体の復興の象徴の一つになったことでしょう。

多くの貴重な資料や写真を見ることができ、広島の惨状とそこからの復興の足跡をたどることができました。





その後、フェリーに乗船し世界遺産の宮島・厳島神社へ向かいました。
残念ながら、修理のため大鳥居は見れませんでした。特別な展示、境内の散策、おみくじなど、充実した時間を過ごすことができました。
原爆投下時に、この宮島付近の民家の窓ガラスが割れたそうです。距離を考慮しても、その影響の大きさに衝撃を受けました。



湖北中
久野優太さん



この日の反省会では、一日目とは違い、直接、被爆体験の話
を聞いたことや、多くの貴重な資料や写真を見れたことで、原
子爆弾の恐ろしさをより痛感し、平和のために私たちができ
ることは何だろうとみんなで考えました。



3日目



3日目は呉市の大和ミュージアムを見学しました。
戦艦大和は、旧日本海軍が当時の最新技術を導入して完成させた世界最大規模の軍艦です。その1/10の精巧に作られた模型が展示されていました。艦内の様子もリアルに表現されていました。



湖北中・植田ひなたさん



湖北中・植田ひなたさん

しかし、戦争における主力は大和のような大型の戦艦ではなく、機動性の高い攻撃が可能な空母と戦闘機に移り変わっていました。1945年4月に沖縄へ向かった大和は、アメリカを中心とする連合軍の集中砲火により沈没しました。

大和ミュージアムには、旧日本海軍の兵器の模型等がたくさん展示されていました。

戦争に突き進む日本の姿や、戦争末期の特攻作戦に使用された兵器を目の当たりにし、戦争のはかなさや、むなしさを感じることができました。

こうして、3日間のすべての行程を終え、私たちは我孫子に帰ってきました。

